

日本財団補助金による 2000年度日中医学学術交流促進事業

④. 日本人研究者派遣助成

- (1) 大腸腫瘍の内視鏡的治療の標準化と安全性の研究

交流・指導テーマ

大腸腫瘍の内視鏡的治療の標準化と安全性の研究

訪中研究者氏名 宇野良治

所属・役職 弘前大学医学部第一内科助手

招聘責任者氏名 袁士宗

所属・役職 北京軍区総医院院長

◆訪問地の状況，課題

訪問先の北京軍区総医院のみならず中国では，大腸内視鏡の挿入技術や大腸内視鏡による治療が日本のそれと異なる状況がある．その根本にはハードがあってもソフトを維持できない中国の医療事情をとりまく経済的な問題があり（内視鏡があっても高価なディスプレイ器具が購入出来ないこと），日本における最先端治療の技術指導が今日明日の診療に役立たないことも事実であるが，今後の中国の経済発展を期待した場合，日本と同様の医療が行われる可能性がないとはいえない．そのため，現時点でも中国で即座に導入できる手技とその理論を指導することと，現在，日本で中心に行われている手技とその理論を中心に指導することを目的とした．

◆講演，指導の内容

9月25日は北京軍区総医院の見学を行い，翌日より行われる実技デモンストラーションで使用する内視鏡および日本から搬入した治療器具の点検を行った．

9月26日は北京軍区総医院の内視鏡室で午前8時30分から12時30分まで合計11人の患者の大腸内視鏡検査を行った．内視鏡室に数人入り，また別室にテレビを2台用意し，内視鏡室で大腸内視鏡を操作している画像と内視鏡画像の2画面をテレビ中継した．そのテレビ中継の部屋には常時20～30人の見学者が訪れた．午後2時から5時30分まで大腸内視鏡の挿入法についてスライドとホワイトボードを利用して講演を行った．

9月27日は午前中に病室を回診し，問題のある患者についてのコメントを行った．午後は中華医学会北京分会でnon-lifting signについてスライド及びビデオで講演した．参加者は300名前後であった．

9月28日、9月29日の午前中は10月26日と同様にライブデモンストレーションを行った。28日は9人、29日は6人の患者の内視鏡検査を行った。合計26人の患者のうち20人は治療を要し、内視鏡的ポリープ切除術および内視鏡的粘膜切除術を行った。特に30mmと非常に大きなポリープの切除や表面型腫瘍の粘膜切除術を行ったことは非常に有意義であった。また、潰瘍性大腸炎の鑑別診断や大腸悪性リンパ腫の診断と2例の大腸癌を発見した。

9月28日の午後は安全な大腸内視鏡治療について午後2時から午後5時30分まで講義し、29日の午後は内視鏡診断について午後2時から午後5時30分まで講義した。

9月30日はホテル内で完全休養し、10月1日～10月3日まで市内観光の予定であったが、中国始まって以来の連休に重なり、大混雑のため十分な観光も出来ずに帰途についた。

◆今後の交流計画

ライブデモンストレーションを見学に来た他病院の医師から自分の病院にも来て大腸内視鏡を行って欲しいとの要望があったが、連休であったため赴くことは出来なかった。今後は内視鏡の指導を希望する施設を事前に調べ上げ、余裕を持って各病院に伝道師のごとく赴くことが必要と考えた。今回のような指導が出来るならば要請に応えたい。